

研修名	令和5年度 訪問看護従事者研修会（新任者編）			
領域	訪問看護	会場	新潟県看護研修センター	資料代 会員 1,100円 非会員 2,200円
対象	<p>対象者；訪問看護に従事してからおおよそ3年以内の看護職員・訪問看護を始めようとしている看護職員・訪問看護に興味、関心がある看護職員</p> <p>全日程；募集30名 応募41名（会員28名 非会員13名）修了37名</p> <p>公開講座；延べ35名</p> <p>合計；延べ339名（うちオンライン受講延べ31名）</p>			
日時	令和5年6月3日（土曜日）～11月25日（土曜日）9:45～15:45（8日間）			
ねらい （目標）	社会的要請と在宅療養におけるニーズに対する訪問看護を推進するために、必要な技術を修得し、質の高い看護が実践できる			
講師	<p>【講 義】</p> <p>1.地域包括ケアシステム； 須田真奈 新潟県福祉保健部高齢福祉保健課在宅福祉班 川崎雄太 新潟県福祉保健部地域医療政策課地域医療整備室</p> <p>訪問看護概論； 古川総一郎 センター病院訪問看護ステーション 訪問看護認定看護師</p> <p>2.在宅ケアシステム； 佐々木勝則 一般社団法人新潟県看護支援専門員協会 会長 伊部まりこ 独立行政法人国立病院機構西新潟中央病院入退院支援室 看護師</p> <p>3.訪問看護過程・訪問看護記録； 布川元子 たちかわ訪問看護ステーション管理者 訪問看護認定看護師</p> <p>4.フィジカルアセスメント； 佐々木祐子 新潟青陵大学大学院看護学研究科 教授</p> <p>5.在宅でのリハビリテーション・肺理学療法； 瀬崎学 県立加茂病院リハビリステーション科 技師長 内部障害系専門理学療法士</p> <p>6・7.家族関係論・家族看護Ⅰ・Ⅱ； 後藤 清恵 独立行政法人国立病院機構西新潟中央病院臨床研究部 臨床心理遺伝カウンセリング研究室 室長 認定遺伝カウンセラー・臨床心理士</p> <p>8.成果報告会； 布川 元子 同上</p> <p>【施設実習】 地域包括支援センター・訪問看護ステーションの管理者等 【eラーニング】 公益財団法人日本訪問看護財団～訪問看護の基礎講座～</p>			
内容・方法	<p>【講 義】 1日合計5時間の時間 講義、グループワーク、演習</p> <p>【施設実習】 調整した施設において、オリエンテーション、同行訪問、まとめ等</p> <p>【eラーニング】 受講者各自が自施設等において動画受講、テスト実施</p>			

<p>結果・評価 (受講者の 意見感想 含む)</p>	<p>○評価方法；全日程；出席時間・講義レポート・実習レポート・eラーニング修了証書 公開講座；アンケート（平均回収率 35.4%）</p> <p>○全日程修了証；下記の条件を全て満たした場合修了証を発行する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義；全日程の 4/5 以上出席し、受講した科目のレポート提出 ・実習；2 日間実習し、実習レポート提出 ・eラーニング；全講義の受講修了の上、テスト正解率 70%以上 <p>○受講者満足度；大いに満足；57.6% 満足 42.4%</p> <p>○研修目的達成度；できた；36.4% ややできた；63.6%</p>
<p>企画の評価</p>	<p>○目的・目標の妥当性 「できた」「ややできた」が 100%を占め、各講義のねらいも「できた」「大体できた」が 89%以上となっており妥当であった。</p> <p>○講師・内容の妥当性 地域包括ケアシステムにおける訪問看護師の役割から訪問看護の実践まで、各専門職による幅広く実践的な講義内容であり受講者の満足度は高く有意義な講義であった。グループワークや参加者同士の交流によりさらに学びが深まったという意見が多かった。実習では、地域における訪問看護の役割を理解することができ良い学びとなったという意見があった。</p> <p>○プログラム・時期の妥当性など 84.8%が適切であったと回答しており妥当であった。 研修期間の長さや遠方からの参加については負担であったとの意見があった。平日に受講することが大変で期間が長かったとの意見もあった。</p> <p>○研修の事前準備・当日の運営など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の実技研修については会場受講を推奨し実施したため、ほぼ全員が会場受講され実践的な技術と知識を学ぶ貴重な研修となった。事情によりオンライン参加となった受講者については前年度同様ビデオ撮影し対応したが、撮影中、会場受講者への配慮と事前に協力依頼するアナウンス不足があった。 ・オンラインの配信がうまくいかず、音声聞き取りにくいこともあった。 ・各研修において講義の進め方や資料配布のタイミングなど事前に講師と打ち合わせを行うことでスムーズな運営につながる。 ・新任者対象の研修のため、訪問看護を始めて間もない受講者や訪問看護師を目指す受講者などが参加しており、お互いの情報交換や不安を共有することで仲間意識も芽生え楽しく研修に取り組めたという意見や意欲向上につながったとの意見があった。 ・実技タイプの研修会はリアルであり、座学では学べない貴重な大変で有意義であったとの意見があった。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護従事者研修会（新任者編）は、訪問看護を始めて 3 年未満の新任者を対象としている。eラーニングはすでに各施設で受講している場合があるため、次年度は前年度に eラーニングを受講済の場合は終了証を確認し、訪問看護従事者研修会（新任者編）全日程の eラーニングを免除できるよう検討していく。 ・「フィジカルアセスメント」は受講者の中でも関心が高く、一日の講義では習得しきれないとの意見があったため、次年度は「肺理学療法」の講義と重複する内容を割り振りし、受講者が習得可能な内容で講義を検討し依頼していく。 ・遠方から受講する場合は交通手段や参加時間に制限がある。そのため終了時間の厳守と時期に

	<p>ついて検討し、できるだけ県内から多くの受講者が負担なく参加できるよう考慮していく。</p> <ul style="list-style-type: none">・ ZOOM 受講者への配信が上手くいく工夫や会場受講者への協力依頼のアナウンス等配慮をしていく必要がある。
担当者	訪問看護推進委員会